

中越地震をふり返って

五十嵐 達生

中越地震から、もう一年がたちました。この一年をふり返ると、いろんなことを経験してきたと思います。

十月二十三日、中越地震が起こり、ぼくたちをおそいました。さいわい、起きていたのが、きせきでした。ぼくは、グラウンドにひなんしました。でも、食料不足だったりねる所がな

いなどの問題も起こりました。一番こま、たことは、電気が使えなかつたことです。ぼくは、(電気が使えればなま)と思いましたが、そうすれば明りがもつと明るくなるのには思いました。もう一つ思、たことがあります。それは、(もつと村がじょうぶだ、たうなま)と思いましたが、じょうぶだ、たら、被害も少なかつた。ただうなまと思、ました。

中越地震が起きてから二、三日後、長岡市にひなんするこつになりました。ぼくは、そ

のことを聞いた時、ええ！と思いました。ぼ  
 くは母に「もう山古志にのれたいの？」と  
 聞いたろ母は「いれをいの。」と言いまもた。  
 ぼくは「そんなこと思いました。ぼくは悲し  
 くなりました。動物が残された山古志を見な  
 がら、山古志をはなれていきました。」

長団のひな所についてぼくは「こ木か  
 ろでんな生活になるのだらう。」と思いました。  
 ひな所でも、よ雨辰がくるのでくるたびに、  
 不安になりました。それに、小さな音でも、

地震をまちがえてしまい、びくびくとち  
 まいました。でも、あたたかいしえんがお手  
 紙、ぶっしがいっぱいきててもうれしか  
 たです。ぼくは「よし、がんばるぞ。」と思  
 いました。また、自衛隊の人がごはんなどの  
 準備をしてくれた時もうれしかつたです。少  
 しずつ元気になりました。ぼくは「全国の  
 人は、やさしいな。」と思いました。そのヤ  
 さしさのおかげで一年間元気に楽しくすごせ  
 たと思います。そのやさしさ一生活ません。